発行日：2023 年 2 月 20 日

広報
環境カウンセラーちば

第 60 号
特定非営利活動法人
環境カウンセラー
千葉県協議会

環境カウンセラーは、環境省に認定された環境の専門家です。
環境調査、環境管理・監査、廃棄物対策、環境教育・学習などお気軽にご相談下さい。

社会変革期のカウンセラーを目指して

理事長　吉田　昌弘

新型コロナ感染症は、いまだ先が見えない状況が続いていますが、会員のみなさまには如何お過ごしでしょうか。

また、ロシアによるウクライナ侵攻も依然として出口が見えず、経済（物価高騰など）や環境破壊にも多大な影響を与えています。

さらに地球温暖化の影響で、昨今寒波や熱波が世界中で猛威をふるい、氷河融解によるバングラデッシュの大洪水など、この地球に住む私たちの社会環境や自然環境へ多くの脅威とリスクの高い生活を強いられつつあります。

このような状況に、世界や日本、千葉県、地元の自治体など、それぞれが新たな計画や対策の見直しを余儀なくされています。

アフターコロナには、中・長期的な地球温暖化対策に関するさまざま施策が、より活発に展開されるだろうと思います。

これまで、EC 千葉の会員の多くは経済中心の中で、公害問題に代表される環境問題を解決してきた歴史があります。

経済と環境は共生しバランスを取りながらの歩みと模索ではありましたが、まだまだ解決すべき多くの問題が存在しています。近年、グローバルな社会が進み、それにより地球規模の問題が、明らかになった途端に、多くの課題を抱えることになっています。

世界的な課題であるからこそ、利害を超えて「環境」を共通のキーワードにして、対話の中から解決の糸口を掴んでいきたいものです。

われわれの見えない部分でも社会の変容は進みつつあります。成熟社会へ向かう一方、格差の伸展があります。環境カウンセラーとして、課題の守備範囲は広く、複雑になってきています。しかし、どんな社会を目指すのか、どんな手段で、課題解決の糸口を探るのか、それを支える「健全で豊かな環境」の構築も必要です。　　以下は私見です。

人間は、社会環境や自然環境と調和して初めて幸せ感が得られるような気がします。その反対が格差や分断の社会であり、極端には戦争の時代・争いの社会だろうと思います。現に起きていることを具現化してみると、「環境カウンセラーとして私たちができることは何なのか」を、時には自問自答してみることが必要ではと思います。小さなことでも、身近なところからでもしっかりとニーズを把握し、できることから行動していく必要があると感じます。

一方、長いコロナ禍を通して世の中が急速に変容しつつあります。それは DX（デジタルトランスフォーメーション）や GX（グリーントランスフォーメーション）の伸展です。AI やデジタル技術を活用する一方で、化石燃料から脱炭素ガスなどの燃料転換や再生可能エネルギーに転換した経済・社会システム全体の変革を促す GX です。EC 千葉の会員活動でも、これらの動きをしっかりキャッチアップし、乗り遅れないようにする必要があります。

国連が提唱した「持続可能な開発目標としたＳＤＧｓ」があります。17 分野のＳＤＧｓを手段として活用し、地球規模から地域貢献まで（仲間と一緒に楽しく）リーダーシップを発揮していくことも一つの方法かと思います。

格差や分断から解放していくことで　ＳＤＧｓのゴールにあるような「誰一人とり残さない地球」にしなければならない。

「百の理論より一つの実践」という松田公太氏(タリーズコーヒージャパン㈱)の名言にもありますように「Think Globally, Action Locally」のアクションに導けるような環境カウンセラーを目指していきたいものです。

そして、会員の皆様それぞれが得意とする分野で、知識・経験と知恵を存分に活かし、「お役に立てられる地元貢献」を目指して行こうではありませんか。

EC 千葉の SDGs活動

事務局

2022 年 3 月 EC 千葉は、千葉県が新たに創設した「千葉ＳＤＧｓパートナー登録制度」に申請し登録（登録番号：615）された。2022 年 12 月 26 日現在の登録企業・団体は 1558 団体である。

［ＳＤＧｓ達成に向けた経営方針等］

ＳＤＧｓ推進に取り組む自治体、行政機関、市民団体、学校等と連携し、持続可能な社会づくりを進める。

●地球温暖化防止とＳＤＧｓの啓発・普及活動を推進する。

●環境カウンセラーとしての知識･技術をベースに、さらに新しい情報や考え方を取り入れ、スキルアップし、人材育成を支援していく。

●各部・各センターは有機的に連携し、多くの情報・技術・アイデアの共有化で、強靭な力を発揮させる。

［関係するＳＤＧｓ目標］

目標 2，4，6，7，8，9，12，13，14，15，17

［EC 千葉の主な活動］

(1)地域に根ざした環境保全活動として、地域の市民・市民団体、NPO･NGO、事業者、自治体、教育機関などとパートナーシップを構築し、環境保全活動の普及・推進に取り組む。事例として、①環境省「環境教育等支援団体」として指定②千葉県「ちば環境学習応援団」に登録③千葉ＳＤＧｓパートナー登録制度のロゴの積極利用など。

(2)市民や事業者を対象にした環境に関する公開講座、セミナー、研修会、自然観察会、見学会などを開催。

(3)小学校から高校の環境授業や自治体、市民団体や事業者が行う環境関連の講座、研修会、講演会などへの講師派遣および種々のメニューを揃え出張講座を行う。

(4)「エコメッセ in ちば」をはじめ、各地の環境イベントに参加し、地球温暖化対策、水環境の保全、生物多様性など環境保全に関する市民への啓発に取り組む。

(5)環境省への政策提言や千葉県の公募事業・協働事業への提案、環境問題に関する諸調査、改善策の検討。

(6)行政機関、事業者などへの環境関連事業に対する支援活動として、環境省の「エコアクション２１」や ISO14001 などの環境マネジメントシステムの導入支援、ISO 内部監査員養成研修を行う。

昨年、EC 千葉は 2022～2025 年のＳＤＧｓ活動計画として環境、社会および経済の 3 側面において、目的・活動内容・目標を策定。現在、各部・各センターは目標達成に向けて取り組んでいる。

（事務局長 井町 臣男、事務局次長 服部 達雄）

出展報告
エコメッセ in ちば 2022

環境学習センター

「エコメッセ in ちば」は、コロナ禍のため 2 年ぶりに幕張メッセを会場として、2022 年 10 月 23 日に開催された。EC 千葉は、活動紹介のパネル展示をはじめ、「ＳＤＧｓに関するアンケート」と「うちエコ診断のＰＲ」の出展をした。

【ＳＤＧｓに関するアンケート調査】

来場者の多くが関心を持つＳＤＧｓに関するアンケート調査を実施した。対象者は、児童・生徒・学生に絞り、内容は、「学校（地域）でのＳＤＧｓ活動」・「ＳＤＧｓから学んだこと」・「実践していること」などの質問を通して対話を深めた。

成果としてあげられるのは、生の声を聞くことで、ＳＤＧｓについて率直な意見や熱き思いが伝わってきた。他方、大学とのコラボが成約したことや、うちエコ診断を勧める機会となる収穫もあった。

調査の結果から、一様に学校での活動や実践は周知しているが、地域活動には関心が薄いという点が気になった。課題としては対象者を若者に限定したが、一般の方の意見も取り入れることも考慮する必要があると思われる。さらに、他のブースとのつながりを強化していくのも重要な要素ではないだろうか。

EC 千葉としては、アンケートの内容・対象・方式等について事前に環境学習センター会議等でじっくり討議をしていくことが大切である。さらに『ＳＤＧｓと環境』に関する研修実践を重ねることが課題解決への道しるべとなるだろう。

（綿貫 沢）

【うちエコ診断のＰＲ】

この度、初めて、うちエコ診断士として参加した。

今回は、千葉市のうちエコ診断の受診者を増やすという明確な目的を持って参加したため、やることははっきりしていた。

学生、主婦、社会人、親子連れと参加者は多様だったが、皆、高い関心を示してもらった。

診断の内容を説明するには掲示物やＰＣ画面では小さく、大きなモニターがあるとよかった。

環境省のうちエコ診断をなぜＥＣ千葉が行っているかという説明も重要であった。

自分で診断ソフトを操作すると勘違いした方もいて、あらためてオンライン診断のむずかしさを感じた。

（中村 仁）

開催報告
エコアクション21普及セミナー
EMS 支援センター

2022 年 8 月 30 日午後、エコアクション２１地域事務局の(一財)千葉県環境財団及び千葉商工会議所との共催で、千葉商工会議所にて例年通り「エコアクション２１普及セミナー」を開催した。今回は初めての試みでコロナ禍を配慮して会場と Zoom のハイブリッド形式を採用した。

エコアクション２１（ＥＡ２１）は、環境省のガイドラインにもとづいて、事業活動における各種エネルギー（CO_2 含む）や廃棄物等の削減目標を設定してその達成に向けて活動するシステムで、経営面にも直接的・間接的にプラスの効果がある。例えば取引先からの信頼、入札審査時の加点、低利融資等が期待できる。

セミナーは次のように 4 部構成とした。

基調講演として、分散する小さな再生可能エネルギーソースをネットワークで統合・制御（需給調整）してより有効に活用し、併せて脱炭素経営と企業価値向上を両立する新しい仕組みについて日本電気㈱の小林憲生様から話題提供を受けた。

次いで、ＥＡ２１をすでに認証・取得されている事業者の取組事例として、㈱エコ・エナジー・ジャパンの下山 亨祐様から、食品廃棄物の焼却処理による発電・売電で、コストダウン及び社会貢献をされている事業の紹介を受けた。また、千葉スバル㈱の髙橋 克徳様から、県内に分散する 26 拠点を一体管理した省エネ活動等の紹介を受けた。

最後に、ＥＡ２１の認証・登録の手続き及び活動のメリット等に関して EC 千葉から説明した。

新型コロナ感染第７波の影響もあったが、講師を含めて総勢 33 名の参加があった。

また、セミナー終了後の個別相談では 3 社から申し出があり、EC 千葉の審査員がそれぞれ応対した。

（センター長 山畑 祐哉）

開催報告
第25回企業環境セミナー
EMS 支援センター

2022 年 10 月 26 日午後、24 年前から継続している「企業環境セミナー」の 25 回目を千葉商工会議所と共催で千葉商工会議所にて開催した。

ISO 14001 では、企業活動の『著しい環境側面』だけでなく『リスクおよび機会』の取組も考慮すべきであるが、さらにはＳＤＧｓ目標をも視野に入れると企業価値向上が期待できるので、昨年と同様に『ISO の運用で、ＳＤＧｓ活動を推進しよう』をテーマとした。

冒頭に環境政策を担っておられる千葉県環境生活部次長の石崎 勝己様から来賓挨拶をいただいた。

次に基調講演として、㈱オフィスグラビティ　代表の中川 優様から『ＳＤＧｓ取り組みの企業動向と ISO マネジメントシステムの活用法』と題して、ＳＤＧｓを経営の柱・成長戦略のツールと捉え、ISO の PDCA サイクルを推進エンジンとすることが有効などの講演をいただいた。

次いで 2 社から事例紹介をいただいた。進和建設㈱伊藤 浩様から『ホップ・ステップ・ＳＤＧｓ： ＳＤＧｓを識って進める総合建設のマネジメントシステム』と題して、市原市の『ＳＤＧｓ未来都市』に参画した活動内容等の紹介があった。さらにガラスリソーシング㈱の髙沢 敦志様からは『「もったいない」から始まったリサイクル』と題して、長年取組んできた社会貢献活動をＳＤＧｓ目標に紐づけして継続されている話があった。

個別相談では、1 社から ISO システムでのＳＤＧｓ目標の展開に関する相談があり、EC 千葉会員が対応した。セミナー開催を後援いただいた 12 団体の協力もあって、総勢 30 名の参加があった。アンケート結果では、多くの方が ISO とＳＤＧｓの繋がりに注目して参加され、自社の活動にヒントを得たとの回答が多かった。

（センター長 山畑 祐哉）

開催報告
ISO 内部監査員養成講座
EMS 支援センター

2022 年度も例年と同様に千葉商工会議所と共催で ISO 14001 及び ISO 9001 の内部監査員養成講座の 2 日間コースを千葉商工会議所にて、それぞれ 2 回開催した。

これら講座は長年実施しており、ISO 14001 講座は 36・37 回目、ISO 9001 は 32・33 回目である。

講師は、いずれもベテランの EC 千葉の会員が担った。

・ISO 14001　6 月 22・23 日（水・木）
・ISO 9001　6 月 30 日（木）・7 月 1 日（金）
・ISO 14001　11 月 8・9 日（火・水）
・ISO 9001　11 月 29・30 日（火・水）

４回の各講座には合わせて計 67 名の参加があった。

近年、ＳＤＧｓ目標への取組みが世界的に注視され、国内企業においても非常に重要視されつつある。

ISO14001 及び ISO 9001 は、それぞれの規定の序文に記されているように、持続可能な発展への取組みを提供するツールでもあり、持続可能な社会を目指したＳＤＧｓの目標達成にも役立つ。

これら講座では、この点も視野に入れた内容にした。

また、講座への参加者が内部監査の要領を効率よく習得できるように、数人のグループに分かれてアクティブラ―ニング形式（能動的な学習法）による演習に多くの時間を割いた。

終了後のアンケートでも、アクティブラーニングを行うことによって、監査要領の理解が深まったとのコメントを多くいただいた。

新型コロナ禍での講座開催ゆえに、感染拡大防止に苦心した。換気・マスク・消毒はもとより、写真に見えるように、ワークショップのグループ毎の机上に簡易ではあるが飛沫飛散防止シートを仮設した。

（センター長　山畑　祐哉）

開催報告
第 4 回大多喜町環境教育プログラム
事業部

2022 年 7 月 31 日朝、キラキラと目を輝かせた 15 人の大多喜町近傍の子どもたちが、大多喜町基幹集落センターに集まり、「生きものさがしをするってどんなことをするの？」、「小さな水力発電所を見学できるの？」などの質問があり、「これからのお楽しみ」とし、第 4 回大多喜町環境教育プログラムを始めた。

前年度は(一財)セブン-イレブン記念財団から助成金をいただきながら、コロナ禍で開催を断念したが、今回も助成金をもらい、保護者にも希望の方に 8 人参加してもらっての悲願の開催である。

オリエンテーションでは、水辺の生きものへの基礎的な知識と生物多様性保全の重要性を認識してもらうとともにエネルギーの重要性と再生可能エネルギーへの期待と、水力発電の原理をおりがみによる「かざぐるま」の製作で理解し、100 年前の大多喜町の先人が面白峡小水力発電所を建設したことを認識してもらった。

午前中は、77 万年前の地層がむきだしの老川露頭がある養老川上流の外出川の水辺での生きものさがしでは、日頃、目にしない生きものを多数捕集し観察でき、子どもたちは大喜びであった。

午後からの面白峡小水力発電所の見学では、㈱関電工の案内スタッフが、模型を使ったりしてわかりやすい説明をされ、子どもたちは熱心に聞いて理解した。

その後、子どもたちに生きものさがしと面白峡小水力発電所の見学で、見たこと、感じたことを配布した色鉛筆で、絵を描いてもらい、一人ずつ、みんなの前で発表してもらった。

この大多喜町環境教育プログラムがめざす期待通りの認識を得ての立派な発表であった。

コロナ対策にも万全を期したが、水辺や急坂路があり、EC 千葉のスタッフ 6 人と外部講師 2 人により事故防止に気を配っていただいた。

（副部長　國廣　隆紀）

活動報告
カーボンニュートラル勉強会
地球温暖化対策センター

2020 年 10 月 26 日、菅首相により「2050 年カーボンニュートラル宣言」が表明された。これは今後、日本の地球温暖化政策･エネルギー政策の根底となるものである。

私たち環境カウンセラーの活動にも大きく影響するもので、政府が具体的な政策として「2050 年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」を 2020 年 12 月 25 日、政府の成長戦略会議にて報告され、新聞等で報道されている。

EC 千葉の会員として各種の活動をしていく上で、政策の内容等をしっかり知っておく必要があるため、カーボンニュートラルに関するもろもろの学習と会員間の情報・意見交換の場を地球温暖化対策センターの中に設けることとし、理事会の承認を得て、2021 年 2 月 7 日に参加会員 20 名で、「2050 年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略勉強会」をスタートした。

（スタート以降、参加人員は増える状況にあり、未参加の会員は参加されたい）

【　勉強会での活動事例　】

(1) 経済産業省の「2050 年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」(2020 年 12 月 25 日発行)　資料 1(63P)資料 2(77P)について意見の交換

(2) 経済産業省の「2050 年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」(2021 年 6 月 18 日発行)　資料 1(91P)資料 2(158P)について意見の交換

(3) 2050 年に向けての成長が期待される 14 の重点分野の個々について具体的な意見の交換

(4) 温暖化対策の緩和策は「エネルギー問題」でもあり、原子力発電をどうするか、具体的な技術情報の提供

(5) 「エネルギー問題」に関連し、水素の課題、燃料アンモニアの課題に対する技術情報の共有化や問題点の提起

(6) 太陽光パネルの拡大と自然破壊の問題

などなど、問題の範囲を広くとらえ、身近な問題と向き合い、自分たちの活動と、どう結び付けていくかの意見が出た。

【 さらなる勉強会の活性化と活動への活かし方 】

政府の政策の内容の理解も大変であるが、地域行政や市民との活動に、いかに発展的に反映していくかがこれからの課題である。

（センター長 橋本 正）

活動報告
食品ロス削減活動
廃棄物対策センター

廃棄物対策センターでは、以下の食品ロスの削減活動に取り組んでいる。

1. 規格外野菜の発生状況の把握と利用促進
2. 食品ロスセミナーへの参加

1.　規格外野菜の発生状況の把握と利用促進

耕種農家が市場へ出荷するには、サイズ・色・形など「規格」に合致しているものでなければ受け容れてもらえない。

これは消費者の購入意欲を掻き立てるために「見映え」の追求や、大きさ、長さなどの基準を設けることにより「輸送効率」の低コスト化を目指すなど経済合理性を追求するため、主に“流通サイド”が設定したものであるが、そのために耕種農家は生産コストをかけた「野菜」を大量に廃棄している。

“同じ畑で栽培したものなのになぜ捨てなければならないのか・・”

地球規模で食糧不足が深刻化している今、当廃棄物対策センターとしては、このような「もったいない」現状に着目し、改善できる糸口を見出したいと考えている。

まず、その一歩として「現状の把握」が必要と考え、千葉県内の耕種農家に協力を求め、「規格外野菜」がどれだけ発生しているか調査に乗り出した。

現在、「人参」、「落花生」を生産している農家へ直接出向き、規格外野菜の発生状況を確認・検証し、その全容を調査・検証に取組んでいる。

今後は、小売店（スーパー）、飲食業界（レストラン）の他、千葉県を巻き込んで規格外野菜の利用促進を目指していきたい。

2. 食品ロスセミナーへの参加

食品ロス削減を進めるためには「知識（食品ロスへの理解）」と「行動（何をすればいいのか）」が必要である。

この知識を得るために消費者庁が開催する「食品ロス削減推進サポーター育成オンライン講座」に EC 千葉の会員が 6 名参加した（2023 年 1 月現在）。

今後は、この知識得た人を中心メンバーとしてプロジェクトチームを編成し、消費者への啓発活動や、企業への指導ができるように取組んでいきたい。

（センター長 潟端 尊史）

活動報告

うちエコ診断の取組み

うちエコ診断実施機関 EC 千葉ネット

「うちエコ診断」とは、
家庭部門での温室効果ガス削減を進める
環境省の取り組みの一つです

2022 年度の「うちエコ診断」の取り組みは、2 つの自治体の活動で支援を受けて行った。

1）令和 4 年度船橋市市民公益活動公募型支援事業に参加（2022. 6. 1～2022. 9. 30）
環境フェアで、PR/募集し、3 件の実績となった。

2） 千葉市地球温暖化対策地域協議会（千葉市環境保全課）主催の「ちばしエコチャレンジ」に参加
（2022. 7. 1～2023. 2. 20）
診断方法：オンライン診断又は対面診断

3）「第 25 回ふなばし環境フェア」に出展（2022. 6. 18）

2016 年度から 2022 年度のこれまでの千葉県内の「うちエコ診断」では、152 件の実績で、1 世帯の人数に関係なく、受診後は受診前に比べて CO2 排出量削減（17. 8%）及び光熱燃料費削減（20. 6%）という効果が出ている。

各世帯の診断によって、個別に定量的なデータが即座にお知らせできることが特徴である。

また診断を受けた世帯の「満足度調査」でも「省エネに役立ち、意識が変わった」との感触を得た。

実際に受診した人の感想を聞いてみると

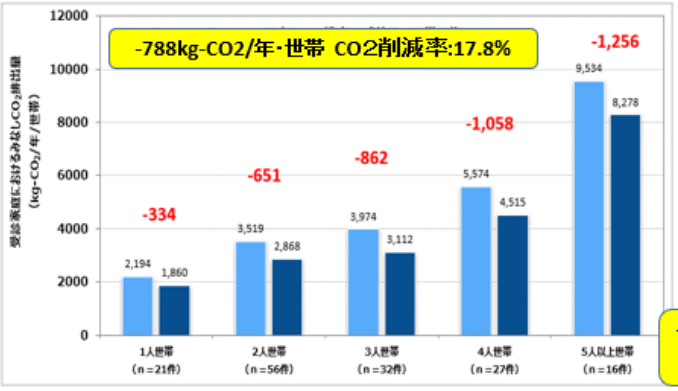
① わが家でできることはもうない、と思っていたが、まだできることがあったことにびっくりした。
② わが家の現状がわかり、具体的な提案でこれからの計画を考えるきっかけになった。
③ 実は買い替えを進められると思って診断を躊躇していたが、お金をかけずにできることがまだあったことがうれしい。家族で相談して実行する。

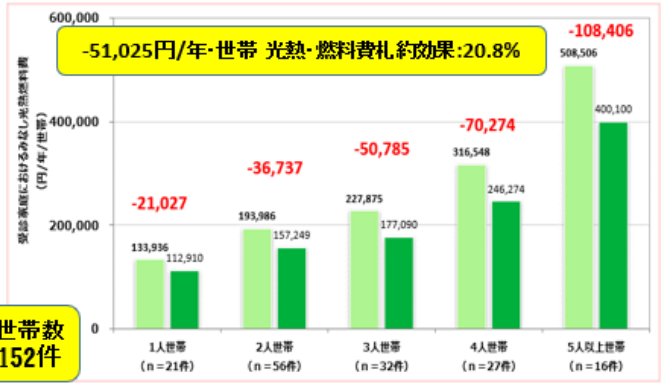
【「うちエコ診断」と他の省エネ診断との主な違い】

① 受診家庭でどの位の CO2 を排出しているかを、数値とグラフで実際に見ることができる。
② さらに、どの分野からどれだけの CO2 が排出されているのかもその場で見ることができる。
③ 提案された事柄を実際に実施したら、どの位の CO2 が削減され、さらに、光熱費はどの位節約になるのかが数値とグラフで見ることができる。

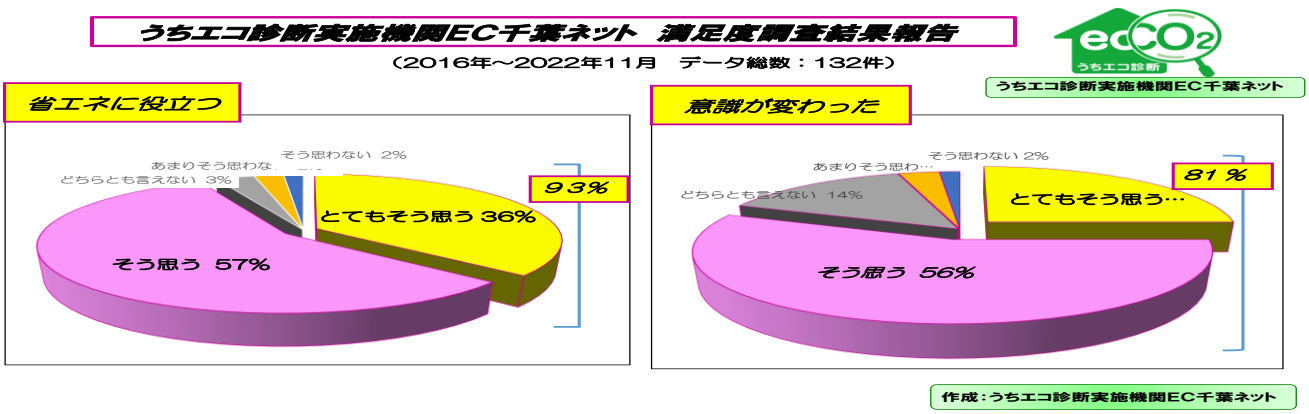
電気料金等の高騰が続いている昨今、ぜひ一度受診されたい。きっと何らかの手立てが見つかるのではなかろうか。

（責任者 吉田 昌弘、副責任者 佐藤 ミヤ子）





世帯数
152件



開催報告

みんなのひろば

環境学習センター

2022 年 2 月からセンターの会議の前に開催している〈みんなのひろば〉には、
他ではなかなか聴くことのできない
知識・情報・叡智が詰まっています

聴かせて下さい!!　ぜひ聴いてください!!

今、環境問題を考える時、地球温暖化だけでなく一見関係なさそうに見えるものでも、互いに影響し合っていることから、総合的な見識が問われる時代を迎えていると感じている。

（ＳＤＧｓのすべてに直接間接の形で関連）

ＳＤＧｓは、地球環境や私たちの社会を未来に繋いでいくために、解決しなければならない課題をまとめたもの。

幸い、EC 千葉には、知識や情報等で卓越した知見を持った大勢の方々がおられる。

しかしながら、地球環境は絶えず変化しており、培ってきた情報・知識・価値観・捉え方など日々更新して行く必要に迫られていると強く感じる今日この頃。

〈みんなのひろば〉は、さまざまな問題を環境カウンセラーとして共有し合う中で、お互いに幅広いスキルアップができる〈機会であり場である〉と。

地元で活躍されている話題を聴かせていただきたい。

この頃感じていることなど、他の方々の意見を聴いてみたらいかが？思わぬ意見や考えにびっくりしたり感心したり、新しい知識や動きもキャッチでき、毎回得した気分で帰途についていただけるのでは……。

〈みんなのひろば〉は、EC 千葉に入会された時の思いの一端を実現できる場にもなるのでは？

-折角の機会をみすみす逃したら もったいない！ -

- 自分磨きに〈みんなのひろば〉のご活用を!! -

（センター長　佐藤 ミヤ子）

【新しいことを始めるむずかしさ】

これまで長年続けてきた「勉強会（相互学習）」を「みんなのひろば」に変更した。ただ名称を変えただけではなく、EC 千葉の会員全員を対象に幅広いテーマで意見交換できる場としての再スタートだった。

話題提供の形式や周知の方法など、色々と試行錯誤を繰り返しながら実施してきたが、話題提供者も参加者もなかなか増えてくれない。約 1 年続けてみて、これまで参加経験がある方にもない方にも、こちらの意図を正確に伝えることはむずかしく、それが原因の一つではないかと感じる。

（副センター長　中村 仁）

【みんなのひろばに参加して】

EC 千葉に入会して初めての活動として、2022 年 9 月に〈みんなのひろば〉で発表をさせていただいた。

さまざまな知見・経験をお持ちの方が、さまざまな内容について発表していることは、「環境」という分野が非常に広範囲の技術分野にまたがることを示しており、聴講することで啓発されることも多いと思う。

また、広く参加の門戸を開くことにより、理事会や各センターの会合への参加は敷居が高いなどと思う人にとって、EC 千葉での活動の参加の入り口・第一歩となる可能性も大きいのではなかろうか。

（捧 一夫）

2022年度〈みんなのひろば〉　話題 と 提供者

（敬称略）

	実施月	話題提供のテーマ	提供者	参加人数
1	2022年4月	大人が楽しむ科学教室、生活に役立つデータの活用法	志澤 達司	10
2	2022年5月	調停って何？	河井 恵子	7
3	2022年6月	〈座談会〉石油、ガス、LNG等が使えなくなる？ そんなことが実際に起きたら、あなたはどうする？	座談会	9
4	2022年7月	地球温暖化、問題の大きさと対応策の疑問点	二宮 豊	15
5	2022年8月	パソコンとの上手な付き合い方	中村 仁	11
6	2022年9月	海で測る・海で調べる	捧 一夫	7
7	2022年10月	電気自動車の将来性	小林 亨	11
8	2022年11月	水環境を守る！　身近なＳＤＧｓ	井町 臣男	12
9	2022年12月	ウクライナ戦争に端を発したエネルギー危機 極端化する気候危機から捉える「食品ロス問題」	佐藤 ミヤ子	9
10	2023年1月	二つの中国	中嶋 滋	9
	合　計			100
	平　均			10

出展報告
第 25 回ふなばし環境フェア
事業部

2022 年 6 月 18 日（土）、ふなばし三番瀬海浜公園・環境学習館にて開催された「第 25 回ふなばし環境フェア」に今年も参加。

環境フェアの今年のテーマは、第 1 回実行委員会（1/28）で“見よう　知ろう　踏み出そう　地球の今と未来のために”と決定。チラシにＳＤＧｓの 17 の目標を図柄で取り入れ、持続可能な開発、みんなが自由に幸せに暮らせる未来を目指しての開催であった。

当日、一昨年のような人数制限はなく、様々なコロナ感染防止対策を行い、参加者数は 2,413 人と、多くの親子連れが来場した。（一昨年は 548 人）

EC 千葉は、“私達は、より良い環境を次の世代に残していきたい。”をテーマとし、小間内では、①吐く息の CO2 濃度測定と、②令和 4 年度船橋市市民公益活動公募型支援事業で採択された「うちエコ診断」事業を紹介した。

上記①のコーナーでは、来場者が風船を膨らませ、風船の中にある「吐いた息」の二酸化炭素と酸素の濃度を測定。子どもから大人まで、男女 40 名の方が体験し、二酸化炭素の削減に感心を持っていただいた。

久しぶりに風船を膨らませられたことも、また楽しかったようである。

□吸う息には 酸素：20.9%、 二酸化炭素：0.04%	➡	■吐く息には 酸素：16.4%、 二酸化炭素：3.8%

※個人差があり参考例である

②のコーナーでは、「うちエコ診断」とは何か、家庭の省エネ・省二酸化炭素対策、光熱水費の削減効果などについて紹介した。

身近な家庭の「エコ」を見直すことで、一人ひとりの地球温暖化問題への意識向上のきっかけとなった。

（井町 臣男）

活動報告
自然観察会（歴史探訪）
環境学習センター

2022 年 11 月 26 日、2 年間にわたり中断していた自然観察会を、松戸市の戸定邸及び千葉大学園芸学部洋式庭園で 11 名が参加して実施した。

当日は、松戸駅集合時点では小雨模様だったが、徒歩移動を開始すると雨もやみ、薄日が差すようになり一安心、戸定邸からは、2 班に分かれ松戸シティーガイドの方のガイドで、邸内や庭園、千葉大学の構内を散策した。戸定邸では、柾目のスギ柱や一本物の梁、一枚板でできた襖など華美ではない中に今ではとても入手できないような材料で贅沢に作られた建具などに感心し、窓から見えたという富士山や筑波山に思いをはせながら明治時代の松戸と武家の暮らしを感じた。庭園は紅葉が見事だった。千葉大学の構内や洋式庭園は、イギリス式、イタリア式、フランス式があり、フランス式庭園が最も庭園らしく整備されていた。これらも、明治後期の開校時から維持されているとのことで、歴史も感じることができた。

（捧 一夫）

今回初めて自然観察会に参加。

戸定邸は、全く何も知らず存在さえ知らなかった。

ガイドの簡単な説明から、歴史的な建物なのかなというぐらいの認識であった。

単に歴史や由来のお話だけでなく公民館として使われていたことや、珍しい資材など、そんな中から見える風景など、ガイドのお陰でなるほどと思えることが沢山であった。

千葉大学園芸学部庭園でもガイドのパワー全開！

肌寒い 1 日だったが、寒さを忘れる程、楽しく庭園散策。最後は素晴らしい紅葉にも出会え、とても充実した 1 日だった。

（中村 仁）

活動報告

地方自治体等への啓発活動

環境学習センター

今 環境活動は、
SDGsの 17 項目のすべてに
直接･間接に関連している

▸ 2022 年度は、地方自治体から 9 件の出前講座の依頼があり実施した。（2022.6 ～ ）

①千葉県総合教育センター2 件
・小中学校新任研究主任研修（6/3）
・高等学校新任教諭研修（11/8）
②市原市役所「温暖化対策研修」（10/14）
③成田市教育委員会生涯大学院（10/5～6）
④木更津市環境政策課（2023/1/15）
⑤千葉市葛城公民館、木更津市西清川公民館
⑥木更津市冨木田公民館
（予定）成田市中央公民館、八街ユネスコ協会
木更津市冨木田公民館

▸ テーマは、地球温暖化関連、食品ロス、プラスチックごみ（マイクロプラスチック）などで、近隣公民館などからの伝え聞きや前年のリピート依頼であった。

“参加した児童から”
・地球環境のことや、問題になっていることがわかった。
友だちと何が出来るか考え実行していきたい。
・SDGs や３R を心がけ自然や地球にやさしくする。

公民館・児童などの講座は、参加者と対話しながら一緒に考え一緒に学び、その中での自らの気付き、行動変容に繋げることを心がけている。

しかしながら、昨今は参加者のニーズも受け止め方も多様化していて、同じテーマであっても、昨年と違う話題や資料作成などの必要性が増していると感じる。

・世界の人口：昨年の 11 月 80 億に
一方では、飢えに苦しむ人が世界で 8 億人
・日本ではこども 7 人に 1 人が貧困状態
・日本の食料自給率：38 ％（2021 年度）
肥料用トウモロコシの殆どが輸入に依存

▸エネルギー危機によってもたらされた価格高騰、輸入先の輸出抑制。

今や「食品ロス」も、台所の問題だけで片づけられない地球規模の取組み課題になっている。

▸世界各国を襲う熱波、水クライシス（水の異変）。
▸「プラスチック容器包装の廃棄量がアメリカに次いで世界で 2 番目」の日本。（人口一人当たり）
▸ 海底に蓄積する海洋プラスチックごみ(マイクロプラスチック)、食物連鎖によって洋生物全体、そして、人間にも影響を及ぼし始めている事が研究者の間で明らかになりつつある。
▸さらに、生物多様性と連動している気候変動、その損失は生きもの全体への危機に直結する問題。

自然が自力で復元できるテッピングポイント（限界点）がすぐそこに来ていることを、私たち環境カウンセラーのこれからの重要な課題ＳＤＧｓとして、講座の参加者と共に改めて認識し合い、できる事をやっていきたいと考えている。

（センター長　佐藤ミヤ子）

成田市教育委員会生涯大学院

千葉市葛城公民館

活動報告
地域の「水環境」出前講座
水環境対策センター

1. 水環境体験教室

2023 年 1 月 30 日、野田市立南部小学校にて小学 4 年生（4 クラス）を対象に「水環境体験教室」を開催した。井町センター長の講習は、水の形態と性質、水の循環、家庭の使用水と汚れ、下水処理場や浄化槽の仕組み、上水道の話とともに、今回は新たにＳＤＧｓの話を加えての参加型講習となった。

昨年は教室とリモートによる講習だったが、今年は体育館にて 4 クラス 120 名集まっての体験学習で、子ども達の積極的な学習意欲に触れることができた。

その後の実習は 1 クラス別に家庭科室にて上口顧問、久保田副センター長及び井町センター長の 3 名の講師で手分けして 4 回行なった。トイレットペーパー他の分解・溶解など 5 種類の実験では、4 クラスともに生徒の皆さん楽しそうに、積極的に取り組んでいた。

2. 美しい作田川を守る会講習会（2 月 9 日予定）

4 年ぶりに山武市成東文化会館にて開催し、EC 千葉から井町センター長及び久保田副センター長を講師として派遣する。

テーマは「水環境を守る！身近なＳＤＧｓ」。

以前の「浄化槽講習会」の内容に、主催者側の意向で新たにＳＤＧｓの話を織り込んだ講習と実習となる。

美しい作田川を守る会の活動は、ＳＤＧｓ達成への行動そのものであること、水環境を守る活動の大切さを参加者一同で共有したい。

（センター長　井町臣男）

総務部からのお知らせ

2022 年 4 月 1 日～2023 年 1 月 31 日の間、EC 千葉への寄付金として、つぎの方々からいただきました。

橋本 正様　　12,000 円
自然観察会より　　256 円

ありがとうございました。

ECU便り
（ECU:NPO 環境カウンセラー全国連合会）

ECU 担当　吉田 昌弘

◇倉田さん環境大臣賞受賞

1 月 17 日、環境省の HP にて、第 5 回環境カウンセラー環境保全活動表彰の受賞者の発表があり、EC 千葉のアドバイザーである倉田 智子様が栄誉ある環境大臣賞を受賞された。

受賞理由は、国立公園ボランティア参加の経験から、手賀沼・印旛沼水系の保全活動に従事し、EC 千葉会員として鎌ケ谷市と環境展を開催、環境学習の講師や市総合基本計画策定委員会委員等を務められた。また、平成 4 年からフィリピン・ミンダナオ島での熱帯林保全再生活動に参加しているほか、ガラパゴス諸島の自然環境調査を実施して見聞録にまとめ、環境保全の発信に努力された。

倉田様は EC 千葉の初期の頃から、理事など要職を歴任され、その発展にご尽力をいただいてきた。

編集後記

広報「環境カウンセラーちば」も EC 千葉創立以来、第 60 号となった。

コロナ禍は未だ気になるが、組織活動への会員各位のさらなる参加を促すために各部、各センターの活動ごとに記事をまとめた。

（編集担当 國廣 隆紀）

広報　環境カウンセラーちば　第 60 号　（発行日　2023 年 2 月 20 日）
発行：特定非営利活動法人　環境カウンセラー千葉県協議会（発行責任者：吉田 昌弘　会員：73 名）
URL： http://ecchiba.sakura.ne.jp/
事務所：〒273-0047　船橋市藤原 6 丁目 1-7　井町 臣男方（郵便宛先）
事務局：E-Mail　ecchiba-jimukyoku@ecchiba.sakura.ne.jp（各種ご相談、お問い合わせ先）
郵便振替口座：00110-5-34692（加入者名：NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会）会費はこちらに！
編集：広報部　山畑 祐哉、國廣 隆紀
E-Mail　pxz04373@nifty.ne.jp